



「一緒に考えよう、これからのこと」

スタッフ全員が話し合いを重ね、
新しいコンセプトを決めました。

がどうしても効かないのだろうか？」と首をかき上げる時期を経て、やっと躁うつ病だと気付いたり……。

露木 通院での診察だけだと関わりが「点」であるのに対して、リワークでは「線」や「面」での関わりになるみたいなどころがありますね。自分だけではなく、BUCのスタッフから見た姿も伝わってきますし……。リワーク・プログラムの長い期間で丁寧に接していくと、深い関わりが生まれますから。

藤井 そのあたりはBUCのスタッフもかなり意識しています。最近では、医療機関以外にもリワークを行う施設が増えてきました。しかし、BUCは医療機関で実施しているリワークで、スタッフは医療の専門家です。メンタルの疾患で休職された方には、正確な診断と治療が必

要不可欠で、BUCで行うリワークは治療そのものなんです。医療スタッフが日々の観察の中で患者さまの変化に気づき、それを先生に報告して診断につなげていたことが、非常に大事になります。

精神科クリニックと復職支援施設が併設する強み

Q 新体制発足に当たって掲げられた、新たなコンセプト（スローガン）に込めた思いを伺えますでしょうか？

竹田 昨年に新体制発足が決まってから、スタッフ全員が話し合いを重ね、「一緒に考えよう、これからのこと」という新しいコンセプトを決めました。

露木 誰か1人で決めたのではなく、全員で決めたことに意義があると思います。それぞれが考えてきたいくつかのコンセプトの中の言葉を組み合わせ、最終的にこの言葉にまとまりました。全員の気持ちが込められているのです。

竹田 一見さりげない言葉で、シンプルなコンセプトのようですが、いろんな意味が込められています。たとえば、「一緒に」とは、スタッフと利用者さんが一緒に復職を考えようということでもあり、駅メンとBUCが一体となって頑張っているということの意味でもあります。また、「今後は、産業界や企業の人事担当者との連携や、宇治おうばく病院との連携もさらに密にしていこう」という意味を含めた「一緒に」でもあります。

Q やはり、駅メンとBUCが同じフロアに併設されていること、宇治おうばく病院と緊密な連携ができることは、大きな強みになっていますね。

露木 そうですね。たとえば、おうばく病院に入院、もしくは通院されていた方が、症状がよくなって復職を目

指そうということになって、こちらに通所されるケースがあります。その場合、連携が密である分、その人に合ったプログラムが組みやすいのです。

竹田 逆に、BUCの利用者さんの入院が必要な状態になった場合にも、おうばく病院とすぐに連携できます。いずれのケースでも、メンタルクリニックやリワーク・デイケア施設が単独でやっているところは、うちの場合ほどスムーズにはいかないでしょう。

藤井 BUCの利用者さんの調子が悪くなったとき、同じフロアにいる駅メンのドクターにすぐ相談できること自体、私たちスタッフにとってはすごくありがたいです。すぐ先生に診ていただけて、しっかり治療を行えますから。



BUCで行うリワークは
治療そのものなんです。